Well-being の構造の国際比較*
——「世界価値観調査データ」による検証——

真　鍋　一　史**
Ronald Inglehart***

1．はじめに

われわれの研究グループが、「世界価値観調査（World Values Survey）」を主催する米国ミシガン大学の Ronald Inglehart 教授と共同研究を始めることになった経緯については、すでに『関西学院大学社会学部紀要』第75号（1996年10月）、第76号（1997年3月）において紹介してきた。このような共同研究の一環として、R. Inglehart と真鍋は問題関心の重なる領域として「Subjective Well-being」という課題を選び、その国際比較という視点に立つデータ解析を進めてきた。ここで、Well-being というテーマが重要であるのは、それが「ポスト近代化」の方向を典型的に反映した価値志向であるからにほかならない。その第一段階の成果が、1996年5月25日と26日の両日、吉備国際大学を主催校として開催された第47回関西社会学会において真鍋が発表した「Well-being の構造の国際比較——R. Inglehart『世界価値観調査データ』による検証——」であった。本稿は、この発表原稿に若干の加筆を行ったものである。

2．Subjective Well-being の研究の系譜

社会科学では社会現象の後追いという側面が否定できない。社会科学の領域で理論という場合、それは社会現象についての説明の体系というものであり、したがってまずある社会現象があって、しかる後にその社会現象を説明する理論が構築されるということになる。Subjective Well-being の研究もその例外ではない。Subjective Well-being 研究の始まりは1950年代終わりから1960年代にさかのぼることができるが、その背景には、一方における Subjective Well-being の同義概念や下位概念——たとえば Subjective Welfare, Affect Balance, Happiness, Life Satisfaction, Mental Health など——の知的インベントリィの蓄積（吉森護「主観的よい状態」「ハッピネス」「精神的健康」、『社会心理学用語辞典』、北大路書房、1995年）とともに、他方における米国各地の大学、教会、病院、企業、団体などを中心とする Wellness の思想と運動の広がりがあった（1975年にアメリカ・カリフォルニアのミルバレーに世界ではじめて Wellness Center が設立され、日本では1985年に厚生大臣認可の財団法人・日本ウェルネス協会が発足している）といえる。

まず、後者については、日本でも、郷原憲一ほか『からだとこころの健康』（日本基督教団出版局、1988年）や、『週刊朝日』1988年1月6－13日合併号からの「アメリカ最新健康情報」の連載記事などにおいて、さまざまな紹介が試みられてきた。1970年代から80年代にかけて広がった Wellness の思想・運動は、R. Inglehart のいうところの「ポスト近代化（Post-modernization）のシンドローム」と軌を一にする性格を示している。それは、Health という概念に対して、より人間らしく、健康で、幸せに、感性と自己表現を大切に、充実した人生を生きる、ということを目標とする

*キーワード：Subjective Well-being、国際比較、因子分析法
**関西学院大学　社会学部教授
***米国ミシガン大学 政治学部教授、Institute for Social Research/Center for Political Studies プログラム・ディレクター

ものといえる。因に、このような意味でのWell-beingという概念は、世界保健機構（WHO）の健康についてのつぎのような定義（1948年）のなかにすでにあらわれていたのである。

「健康とは、単に病気あるいは虚弱でないばかりでなく、身体的にも、精神的にも、また社会的にも、完全に『よい状態』（Well-being）である」（鎌田慧『現代社会100面相』岩波書店、1987年、p. 174）。

つぎに、前者については、つぎの2つの研究領域が区別される。(1)Subjective Well-being のConceptualization と Measurement に関する研究と、(2)Subjective Well-being の分析に関する研究、というのがそれである。

(1)については、この領域における先行諸研究の渉猟と整理を試みたものとして、以下の2冊の文献をあげることができる。

1）Ian McDowell and Claire Newell, Measuring Health : A Guide to Rating Scales and Questionnaires, Oxford University Press, 1987.

ここでは以下の6つの先行研究で考案されたscaleが検討されている。

①Allister M. Mcmillan, The health opinion survey: technique for estimating prevalence of psychoneurotic and related types of disorder in communities, Psychol Rep 1957; 3.

②Thomas S. Langner, A twenty-two item screening score of psychiatric symptoms indicating impairment, J Health Hum Behav 1962; 3.

③Norman M. Bradburn, The structure of psychological well-being, Aldine, 1969.

④Harold J. Dupuy, Self-representations of general psychological well-being of American adults, Paper presented at American Public Health Association Meeting, Los Angeles, California, 1978.

⑤John E. Ware, Jr, et al, Conceptualization and measurement of health for adults in the Health Insurance Study : Rand Coporation, 1978.

⑥David Goldberg, The detection of pychiatric illness by questionnaire, Oxford University Press, 1972.

2）John P. Robinson, Phillip R. Shaver and Lawrence S. Wrightsman eds, Measures of Personality and Social Psychological Attitudes, Academic Press, 1991.

ここでは以下の9つの先行研究で考案されたscaleが検討されている。

①Neugarten, B. L., Havighurst, R. J., & Tobin, S. (1961). The measurement of life satisfaction. Journal of Gerontology, 16,134-143.

②Bradburn, N. M. (1969). The structure of psychological well - being. Chicago: Aldine.

③Lawton, M. P. (1975). The Philadelphia Center Morale Scale: A revision. Journal of Gerontology, 30, 85-89.

④Campbell, A., Converse, P. E., & Rodgers, W. L. (1976). The quality of American life: Perceptions, evaluations, and satisfactions. New York: Russell Sage Foundation.

⑤Andrews, F.M., & Withey, S. B. (1976). Social indicators of well-being : American's perceptions of life quality. New York : Plenum.

⑥Fazio, A.F. (1977). A concurrent validational study of the NCHS General Well-Being Schedule (Dept. of H. E. W. Publ. No. HRA-78-1347). Hyattsville, MD: National Center for Health Satistics.

⑦Kozma, A., & Stones, M.J. (1980). The measurement of happiness: Development of the Memorial University of Newfoundland Scale of Happiness (MUNSH). Journal of Gerontology, 35, 906-912.

⑧Kammann, R., & Flett, R. (1983). Affectometer 2: A scale to measure current level of general happiness. Australian Journal of Psychology, 35, 259-265.

⑨Fordyce, M. W. (1986). The PSYCHAP Inventory: A Multi-item test to measure happiness and its concomitants. Social Indicators Research, 18, 1-33.

今回は、以上のような先行研究の紹介にとどめ、それらの内容についての検討の作業はつぎの機会に譲ることにしたい。

(2)については、安田三郎が意識の研究法としてあげた①記述分析、②条件分析、③構造分析、という分類法(『社会調査の計画と解析』東京大学出版会、1970年)がここでも有効であるといえる。いうまでもなく、①記述分析はSubjective Well-beingに関する質問項目に対する回答の集合的分布を記述しようとするものである。②条件分析は性、年齢、学歴、職業、収入などのデモグラフィック要因とSubjective Well-beingに関する質問項目に対する回答との関係を分析しようとするものである。③構造分析はSubjective Well-beingに関する質問項目に対する回答相互間の関係、およびSubjective Well-beingとそれ以外の主観的意識との相互間の関係を分析しようとするものである。

Subjective Well-beingに関するR. Inglehart自身の研究成果としては、つぎの2つをあげることができる。

①Ronald Inglehart and Jacques-Rene Rabier, Aspirations Adapt to Situation—But Why Are the Belgians so Much Happier than the French? : A Cross-Cultural Analysis of the Subjective Quality of Life, in Frank Andrews (ed.) Research on the Quality of Life, ISR, 1986.

②Frank Andrew and Ronald Inglehart, The Structure of Subjective Well-Being in Nine Western Societies, Social Indicators Research 6, 1979.

安田三郎の分類法に従えば、前者では「記述分析」と「条件分析」が、後者では「構造分析」が、それぞれ試みられている。しかし、これらの内容の紹介とその検討については、稿を改めることとし、ここでは後者の文献において、イスラエル・ヘブライ大学のL. Guttmanによって理論的に考案され、米国ミシガン大学のJ. C. Lingoesによってそのコンピュータ・プログラムが開発されたSmallest Space Analysis (SSA)の手法が用いられているという点に注目しておきたい。それは、つぎのセクションにおいてR. Inglehartと真鍋は、Subjective Well-Beingに関する質問諸項目間の関係の構造の分析のために因子分析の手法を用いるが、SSAがノンメトリックな方法であるのに対して、因子分析はメトリックな方法であり、この両者の手法についての方法論的な議論ということも今後の重要な課題のひとつになるからにほかならない。

3. Well-beingの諸変数の「因子分析法(Factor Analysis)」による分析

いうまでもなく、因子分析法は共変する傾向を含んだ諸変数を数学的に操作することによって、より一般的な少数の共通因子を抽出する方法である。ここでは、この方法を用いて、「世界価値観調査」の諸変数(質問項目)のなかからWell-beingという概念を構成すると考えられる19の諸変数を選び出し、各国をつうじてそれらの諸変数に共通因子が見られるかどうか、言葉を変えていえば、Well-beingという次元は各国をつうじてこの同じ19の諸変数で捉えることができるかどうか、を検討してみようというのである。

ところで、因子分析の手順に移るに先立って、Well-beingの構造の国際比較のためにどのような国ぐにを選んだかについても述べておかなければならない。じつは、この作業は、R. Inglehart自身による先行研究——Modernization and Postmodernization: The Changing Relationship between Economic Development, Cultural Change and Political Change (1993)、真鍋一史訳「近代化とポスト近代化:経済発展と文化変化と政治変動の相互の関係の変化」『関西学院大学社会学部紀要』第77号(1997年)を踏まえてなされたのである。具体的にいうならば、Inglehartは43か国の「世界価値観調査データ」(1990-1991)の48変数を用いて、因子分析によってSurvival Values↔Well-being Values, Traditional

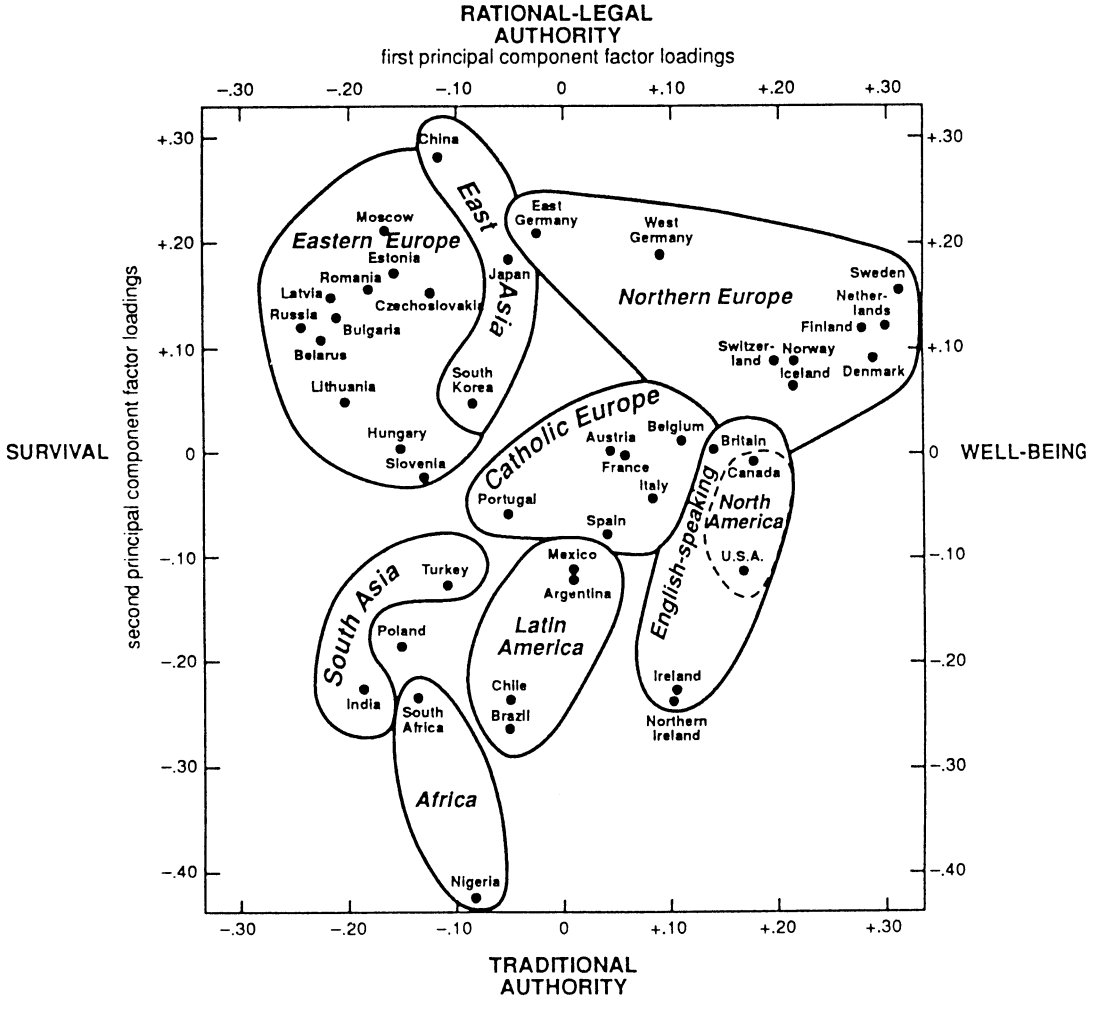


図1　二つの次元（軸）における各国の位置

Source : 1990-1991 World Values survey. Positions are based on the mean scores of the publics of the given nation on each of the two dimensions.

Authority↔Rational-Legal Authority という二つの次元（因子）を抽出するとともに、各国の回答者の因子負荷量の平均値の計算にもとづいて、この二つの次元の上にそれぞれの国をプロットするという試みを行っているのであるが（図1)、このようにして分類された国ぐにのクラスターのなかから、これも Inglehart 自身による人びとの価値観についての国際比較の諸知見にもとずいて、ひとまず——これは文字通り「ひとまず」であって、その後、さらにほかの国ぐにも検討の対象として取りあげている——つぎのような国ぐにが選ばれたのである。それは、日本、ドイツ（西ドイツ)、米国、ブラジル、中国（中華人民共和国)、インド、ナイジェリアの7か国である。

つぎに、ここでデータ解析に用いた19の諸変数は以下のとおりである（ここでは「日本調査」の調査票での質問番号とコードブックでの変数番号を付しておいた。なお実際の質問文については＜付録＞を参照されたい)。

Q 5 (V18)幸せ度：Respondent's happiness

Q 9 (V83)健康状態：State of health

Q10(V421)精神状態：Bradburn Affect Balance Scale

ここ数週間の精神状態について10のス

テートメントを準備するが、それらは5つずつのポジティヴ・ステートメントとネガティヴ・ステートメントから構成されている。これらのステートメントのそれぞれについて「はい」と回答した場合を「1点」として、それらをポジティヴ・ステートメント、ネガティヴ・ステートメントごとに加算した上で、前者から後者の得点の減算をして得られた－5から＋5までの数値を用いる。

Q11(V94)他人への信頼度：Trust people

Q12(V95)人生を思いどおりにできると思うかどうかの度合：Free choice/ control

Q13(V96)生活の満足度：Life satisfaction

Q17(V116)仕事の満足度：Job satisfaction

Q18(V117)仕事上での意志決定の自由度：Decision-making freedom

Q24(V132)家計状態の満足度：Financial satisfaction

Q42(V180)家庭生活の満足度：Home satisfaction

Q64(V248)保守－革新スケールでの位置：Left-Right placement

Q65(V249)社会変革についての考え方：Societal change

Q73H(V279)国会への信頼度：Confidence: parliament

Q73I(V280)行政への信頼度：Confidence: civil serv.

Q77(V322)国民としての誇り：Proud of nationality

Q80(V338)政治的無力感：Helpless

F 3 (V356)教育レベル：Age finished school

F 8 (V363)世帯年収：Income scale

F 9 (V364)社会・経済階層：Socioeconomic status

以上の19の諸変数から主因子法による因子分析法を用いて各国ごとに共通因子を抽出し、、バリマックス回転後の因子負荷量（因子と項目との間の相関係数）を算出するという手順をとった。この手法に関してはつぎの点を付記しておかなければならない。それは、①因子分析法では、まず第1因子を求め、つぎにその第1因子とは全く相関を持たず、第1因子によっては説明されなかった

表1 SUBJECTIVE WELL-BEING IN JAPAN

VARIMAX ROTATED FACTOR MATRIX
(NORMALIZED SOLUTION)

		FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5	FACTOR 6
JOB SATISFACTION	V116	−0.24924	−0.06697	0.86788	0.05808	−0.05119	−0.02104
DECISION-MAKING FREEDOM	V117	−0.11182	−0.04918	0.90415	−0.00448	−0.05655	−0.02481
FINANCIAL SATISFACTION	V132	−0.72872	−0.07950	0.20352	−0.21365	−0.04907	0.06361
HOME SATISFACTION	V180	−0.82757	−0.05217	0.06950	−0.07249	−0.03117	−0.15729
IS R HAPPY	V18	−0.69874	−0.00351	0.01668	−0.01419	0.04754	−0.26232
LEFT-RT SELF PRACEMENT	V248	−0.12986	−0.22208	0.03318	−0.03421	−0.73571	0.09686
SOCIETAL CHANGE	V249	0.09655	−0.03147	0.03216	0.04335	−0.77289	−0.08076
CONFIDENCE : PARLIAMENT	V279	0.05802	0.89978	−0.03755	−0.00018	0.12491	−0.04614
CONFIDENCE : CIVIL SERV	V280	0.06723	0.91262	−0.02445	0.04637	0.07580	−0.02653
PROUD TO BE . . .	V322	0.17877	0.38180	−0.01394	−0.26100	0.18254	0.16720
HELPLESS : UNJUST LAW	V338	0.16762	−0.31020	0.28553	−0.27422	0.22831	−0.17676
INCOME SCALE	V363	−0.26951	−0.07265	−0.03070	−0.67634	−0.09549	0.18369
SOCIOECONOMIC STATUS	V364	0.00632	−0.10303	−0.42582	−0.48658	0.06207	0.10405
AGE FINISHED SCHOOL	V356	0.06852	0.09594	−0.05617	−0.70957	−0.03672	−0.18492
BRADBURN SCALE	V421	−0.19379	−0.10524	0.03982	−0.06141	0.00043	−0.70246
PEOPLE TRUSTED	V94	−0.15050	0.02019	0.04305	−0.46426	0.10329	−0.09694
FREE CHOICE/CONTROL	V95	−0.16495	0.00874	0.08991	−0.39078	0.14960	−0.43975
LIFE SATISFACTION	V96	−0.80242	−0.09764	0.11501	−0.07355	−0.01832	−0.26304
STATE OF HEALTH	V83	−0.17373	0.07212	−0.05562	−0.05662	−0.04804	−0.69576

表 2　SUBJECTIVE WELL-BEING IN U. S.

VARIMAX ROTATED FACTOR MATRIX
(NORMALIZED SOLUTION)

		FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5	FACTOR 6
JOB SATISFACTION	V116	−0.31719	−0.02881	0.03500	0.77988	0.01574	−0.04901
DECISION-MAKING FREEDOM	V117	−0.08039	0.08967	−0.03171	0.83856	−0.07973	−0.00549
FINANCIAL SATISFACTION	V132	−0.42194	0.21685	0.13622	0.40588	0.12443	−0.18186
HOME SATISFACTION	V180	−0.72617	0.03536	0.03868	0.15892	0.00075	−0.21851
IS R HAPPY	V18	−0.66547	0.02053	0.00919	−0.04118	−0.04237	−0.05624
LEFT-RT SELF PRACEMENT	V248	−0.15230	0.09529	0.04167	−0.04412	0.35671	−0.63460
SOCIETAL CHANGE	V249	0.13383	−0.06102	0.01076	0.10329	−0.26300	−0.71914
CONFIDENCE : PARLIAMENT	V279	0.07493	−0.09207	−0.85185	0.03287	0.03354	0.05763
CONFIDENCE : CIVIL SERV	V280	0.05178	0.12589	−0.83990	−0.06712	−0.03894	0.04128
PROUD TO BE . . .	V322	0.29390	0.20931	−0.09328	−0.02966	0.08862	0.46350
HELPLESS : UNJUST LAW	V338	−0.13610	0.16344	−0.03686	−0.10772	−0.65902	−0.13988
INCOME SCALE	V363	−0.13153	0.77414	−0.02362	0.09389	0.03617	−0.00001
SOCIOECONOMIC STATUS	V364	−0.08510	0.75895	0.03791	0.16983	−0.13383	0.00906
AGE FINISHED SCHOOL	V356	−0.01238	0.70939	−0.01908	−0.09385	−0.20012	0.06783
BRADBURN SCALE	V421	−0.66543	0.14480	0.00729	0.11746	−0.14426	0.04279
PEOPLE TRUSTED	V94	−0.10416	0.10602	0.03283	0.13060	−0.71443	−0.04586
FREE CHOICE/CONTROL	V95	−0.50536	0.01086	0.12515	0.23364	−0.13171	0.06288
LIFE SATISFACTION	V96	−0.77571	0.05628	0.05656	0.23317	−0.00751	−0.10591
STATE OF HEALTH	V83	−0.44947	0.37462	−0.11477	−0.11776	−0.03629	0.17288

表 3　SUBJECTIVE WELL-BEING IN GERMANY

VARIMAX ROTATED FACTOR MATRIX
(NORMALIZED SOLUTION)

		FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5
JOB SATISFACTION	V116	−0.18771	−0.10550	−0.11180	−0.09183	0.72748
DECISION-MAKING FREEDOM	V117	−0.02354	−0.02772	−0.21683	−0.04226	0.78507
FINANCIAL SATISFACTION	V132	−0.32467	−0.22333	−0.12162	−0.14452	0.57998
HOME SATISFACTION	V180	−0.61458	−0.15005	0.04456	−0.09171	0.41223
IS R HAPPY	V18	−0.69475	−0.14832	−0.06321	−0.04427	0.08760
LEFT-RT SELF PRACEMENT	V248	−0.05111	−0.68638	−0.09786	−0.05382	0.06030
SOCIETAL CHANGE	V249	0.03094	−0.60844	0.00670	−0.08122	0.05878
CONFIDENCE : PARLIAMENT	V279	0.01959	0.39872	0.01907	0.72433	−0.00183
CONFIDENCE : CIVIL SERV	V280	0.00633	0.35034	−0.05985	0.70175	−0.08325
PROUD TO BE . . .	V322	−0.11945	−0.70493	0.15738	−0.00507	0.09471
HELPLESS : UNJUST LAW	V338	−0.01760	0.19633	−0.16242	−0.45003	0.22107
INCOME SCALE	V363	−0.14943	−0.07457	−0.78199	0.04727	0.14283
SOCIOECONOMIC STATUS	V364	−0.07693	−0.07789	−0.76815	−0.08955	0.21201
AGE FINISHED SCHOOL	V356	−0.05977	0.36109	−0.62302	−0.13066	−0.00933
BRADBURN SCALE	V421	−0.74535	0.00476	−0.14087	−0.10463	0.12706
PEOPLE TRUSTED	V94	0.26028	−0.26566	0.06913	0.49109	0.00616
FREE CHOICE/CONTROL	V95	−0.48043	0.04600	0.08958	0.00939	0.46412
LIFE SATISFACTION	V96	−0.76889	−0.03024	0.00243	−0.05099	0.41971
STATE OF HEALTH	V83	−0.64516	0.13466	−0.29276	0.00347	−0.15411

表 4 SUBJECTIVE WELL-BEING IN BRAZIL

VARIMAX ROTATED FACTOR MATRIX
(NORMALIZED SOLUTION)

		FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5	FACTOR 6
JOB SATISFACTION	V116	−0.33814	−0.05669	0.00323	−0.58925	0.21357	−0.03230
DECISION-MAKING FREEDOM	V117	−0.13020	0.11376	−0.04556	−0.73911	0.07591	0.03517
FINANCIAL SATISFACTION	V132	−0.39608	0.13641	0.18651	−0.38099	0.02293	−0.09603
HOME SATISFACTION	V180	−0.58703	−0.04862	0.09012	−0.28217	0.10484	−0.02515
IS R HAPPY	V18	−0.65439	0.06364	0.01187	−0.10662	0.13703	−0.03731
LEFT-RT SELF PRACEMENT	V248	−0.01737	−0.06179	0.10173	−0.18285	0.58399	0.20271
SOCIETAL CHANGE	V249	0.06586	−0.10890	−0.00056	−0.13354	0.67146	−0.15425
CONFIDENCE : PARLIAMENT	V279	0.00735	0.08191	−0.80835	0.06576	−0.12001	0.00839
CONFIDENCE : CIVIL SERV	V280	0.02807	0.03321	−0.83179	−0.02512	−0.05255	−0.02759
PROUD TO BE . . .	V322	−0.24581	−0.14359	0.16132	0.12872	0.55546	0.02529
HELPLESS : UNJUST LAW	V338	−0.10142	0.30632	−0.08805	0.40662	0.34344	−0.05281
INCOME SCALE	V363	−0.04731	0.83572	−0.07417	−0.08113	−0.05768	−0.03649
SOCIOECONOMIC STATUS	V364	−0.05384	0.83801	−0.07676	−0.04919	−0.04412	−0.00966
AGE FINISHED SCHOOL	V356	−0.01570	0.64546	0.02605	0.06507	−0.16099	0.10664
BRADBURN SCALE	V421	−0.67558	0.11976	−0.02113	0.04650	0.02623	0.02582
PEOPLE TRUSTED	V94	0.03851	−0.07833	−0.01457	−0.01474	−0.02886	−0.92245
FREE CHOICE/CONTROL	V95	−0.49452	−0.09832	−0.01804	−0.09892	−0.04330	0.24875
LIFE SATISFACTION	V96	−0.69075	−0.08207	0.05398	−0.32709	0.10478	0.08231
STATE OF HEALTH	V83	−0.50913	0.21796	−0.08917	0.15679	−0.16657	−0.13050

表 5 SUBJECTIVE WELL-BEING IN CHINA

VARIMAX ROTATED FACTOR MATRIX
(NORMALIZED SOLUTION)

		FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5
JOB SATISFACTION	V116	−0.65551	−0.23139	−0.14098	−0.04214	0.23627
DECISION-MAKING FREEDOM	V117	−0.51503	0.02961	−0.14015	−0.09387	0.36606
FINANCIAL SATISFACTION	V132	−0.75237	−0.08751	0.04106	0.03483	−0.12220
HOME SATISFACTION	V180	−0.72322	−0.11977	0.03720	−0.03916	−0.08884
IS R HAPPY	V18	0.17042	0.08371	0.27626	0.19514	−0.48239
SOCIETAL CHANGE	V249	−0.13345	−0.62562	0.01931	0.14042	0.05548
CONFIDENCE : PARLIAMENT	V279	−0.13787	−0.69973	0.08593	−0.19622	0.30604
CONFIDENCE : CIVIL SERV	V280	0.03965	−0.63520	−0.03049	−0.27441	−0.20379
PROUD TO BE . . .	V322	−0.32209	−0.61684	−0.09671	−0.00726	0.27311
INCOME SCALE	V363	−0.16688	0.15675	−0.24473	−0.10020	−0.71183
AGE FINISHED SCHOOL	V356	0.01823	−0.32916	−0.68684	0.01138	0.12364
BRADBURN SCALE	V421	−0.33382	−0.08839	−0.12551	−0.60219	0.07550
PEOPLE TRUSTED	V94	−0.04090	−0.26448	−0.72309	−0.02101	−0.13721
FREE CHOICE/CONTROL	V95	−0.62631	−0.01217	−0.03011	−0.22898	0.08051
LIFE SATISFACTION	V96	−0.70161	−0.17684	0.01497	−0.32617	−0.03620
STATE OF HEALTH	V83	−0.07688	−0.04303	0.06135	−0.83188	0.01077

表6　SUBJECTIVE WELL-BEING IN INDIA

VARIMAX ROTATED FACTOR MATRIX
(NORMALIZED SOLUTION)

		FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5	FACTOR 6	FACTOR 7
JOB SATISFACTION	V116	−0.32505	0.02564	0.16445	−0.62399	0.09241	0.18270	−0.06183
DECISION-MAKING FREEDOM	V117	0.13532	−0.03479	0.10730	−0.74346	−0.11132	0.07100	0.02609
FINANCIAL SATISFACTION	V132	−0.49890	−0.07669	0.15928	−0.48051	0.28656	0.03892	−0.18524
HOME SATISFACTION	V180	−0.51281	−0.07192	0.15338	−0.46051	0.25257	0.13981	−0.12781
IS R HAPPY	V18	−0.72620	−0.00325	0.01412	−0.03492	0.02600	0.03899	−0.00109
LEFT-RT SELF PRACEMENT	V248	−0.12144	−0.06315	−0.02094	−0.06627	0.59411	0.27060	0.03665
SOCIETAL CHANGE	V249	−0.01654	0.00358	−0.01479	−0.02827	0.03610	0.84022	0.03834
CONFIDENCE : PARLIAMENT	V279	0.02183	0.86603	−0.01174	−0.01904	−0.05994	0.07245	0.01051
CONFIDENCE : CIVIL SERV	V280	0.01098	0.82367	−0.05776	−0.00024	−0.06745	0.03162	−0.01932
PROUD TO BE . . .	V322	0.16972	0.45252	0.02177	0.06578	0.18191	−0.28136	−0.01048
HELPLESS : UNJUST LAW	V338	−0.10481	−0.03487	0.05924	−0.12523	−0.64586	0.33734	−0.08561
INCOME SCALE	V363	−0.09076	0.03144	0.76583	−0.14758	0.13043	−0.02087	−0.04827
SOCIOECONOMIC STATUS	V364	−0.03083	−0.05317	0.83365	−0.04453	0.01346	0.01732	0.01105
AGE FINISHED SCHOOL	V356	−0.09551	−0.03921	0.66822	−0.08440	−0.25929	−0.02127	0.04721
BRADBURN SCALE	V421	−0.38500	−0.18606	0.17666	−0.14902	−0.22469	−0.20808	0.01374
PEOPLE TRUSTED	V94	0.08566	0.01800	−0.01140	0.07034	−0.09460	−0.03882	−0.94254
FREE CHOICE/CONTROL	V95	−0.08320	0.01493	0.02367	−0.68851	−0.13007	−0.15044	0.15163
LIFE SATISFACTION	V96	−0.55738	−0.00793	0.01499	−0.53499	0.16848	0.00134	−0.00214
STATE OF HEALTH	V83	−0.72076	0.05867	0.06788	−0.02982	0.10289	0.04705	0.17688

表7　SUBJECTIVE WELL-BEING IN NIGERIA

VARIMAX ROTATED FACTOR MATRIX
(NORMALIZED SOLUTION)

		FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5	FACTOR 6
JOB SATISFACTION	V116	−0.63664	−0.13146	−0.03661	0.10908	0.14033	−0.08953
DECISION-MAKING FREEDOM	V117	−0.43011	0.14994	−0.05708	−0.10339	0.43389	−0.06224
FINANCIAL SATISFACTION	V132	−0.70840	−0.15363	−0.00691	0.05166	−0.02112	−0.15599
HOME SATISFACTION	V180	−0.69334	−0.16339	−0.04862	0.22350	−0.01072	−0.08274
IS R HAPPY	V18	−0.71059	0.13539	−0.09074	−0.13357	−0.04119	−0.11156
LEFT-RT SELF PRACEMENT	V248	−0.17044	0.03634	−0.04107	−0.74480	0.12952	0.22811
SOCIETAL CHANGE	V249	−0.25762	0.02099	−0.06695	0.06161	−0.71080	0.15495
CONFIDENCE : PARLIAMENT	V279	−0.00191	−0.00504	0.83557	0.15413	−0.06099	−0.01132
CONFIDENCE : CIVIL SERV	V280	0.05869	0.00712	0.83808	−0.11643	−0.00590	0.01978
PROUD TO BE . . .	V322	0.19871	−0.19024	0.35497	−0.12153	0.15909	0.19932
HELPLESS : UNJUST LAW	V338	0.11997	−0.16163	0.10935	−0.48123	−0.00099	−0.22777
INCOME SCALE	V363	−0.39122	−0.61367	−0.05637	0.09692	0.04718	−0.10383
SOCIOECONOMIC STATUS	V364	−0.03538	−0.80590	0.10420	0.01847	−0.00283	−0.04991
AGE FINISHED SCHOOL	V356	0.06245	−0.66081	0.00136	−0.17696	0.00534	0.04996
BRADBURN SCALE	V421	−0.18426	−0.05621	−0.01332	−0.05604	0.02791	−0.72390
PEOPLE TRUSTED	V94	−0.13853	0.02251	0.09587	0.45262	0.43114	0.20478
FREE CHOICE/CONTROL	V95	−0.35136	−0.13607	−0.11389	0.00892	0.44088	0.01685
LIFE SATISFACTION	V96	−0.79336	0.09704	−0.02009	−0.14352	−0.00979	−0.14195
STATE OF HEALTH	V83	−0.25352	0.00997	−0.07174	0.01331	0.07473	−0.70894

表8 FACTOR ANALYSIS : SUBJECTIVE WELL-BEING

	1	2	3	4	5	6
JAPAN	FINANCIAL SATISFACTION HOME SATISFACTION IS R HAPPY LIFE SATISFACTION	CONFIDENCE : PARLIAMENT CONFIDENCE : CIVIL SERV	JOB SATISFACTION DECISION-MAKING FREEDOM	INCOME SCALE SOCIOECONOMIC STATUS AGE FINISHED SCHOOL PEOPLE TRUSTED FREE CHOICE/CONTROL	LEFT-RT SELF PLACEMENT SOCIETAL CHANGE	BRADBURN SCALE STATE OF HEALTH
GERMANY	HOME SATISFACTION IS R HAPPY BRADBURN SCALE FREE CHOICE/CONTROL LIFE SATISFACTION STATE OF HEALTH	LEFT-RT SELF PLACEMENT SOCIETAL CHANGE PROUD TO BE	INCOME SCALE SOCIOECONOMIC STATUS AGE FINISHED SCHOOL	CONFIDENCE : PARLIAMENT CONFIDENCE : CIVIL SERV	JOB SATISFACTION DECISION-MAKING FREEDOM FINANCIAL SATISFACTION	
U. S.	FINANCIAL SATISFACTION HOME SATISFACTION IS R HAPPY BRADBURN SCALE FREE CHOICE/CONTROL LIFE SATISFACTION STATE OF HEALTH	INCOME SCALE SOCIOECONOMIC STATUS AGE FINISHED SCHOOL	CONFIDENCE : PARLIAMENT CONFIDENCE : CIVIL SERV	JOB SATISFACTION DECISION-MAKING FREEDOM	HELPLESS : UNJUST LAW PEOPLE TRUSTED	LEFT-RT SELF PLACEMENT SOCIETAL CHANGE
BRAZIL	FINANCIAL SATISFACTION HOME SATISFACTION IS R HAPPY BRADBURN SCALE FREE CHOICE/CONTROL LIFE SATISFACTION STATE OF HEALTH	INCOME SCALE SOCIOECONOMIC STATUS AGE FINISHED SCHOOL	CONFIDENCE : PARLIAMENT CONFIDENCE : CIVIL SERV	JOB SATISFACTION DECISION-MAKING FREEDOM	LEFT-RT SELF PLACEMENT SOCIETAL CHANGE PROUD TO BE	PEOPLE TRUSTED
CHINA	JOB SATISFACTION DECISION-MAKING FREEDOM FINANCIAL SATISFACTION HOME SATISFACTION FREE CHOICE/CONTROL LIFE SATISFACTION	SOCIETAL CHANGE CONFIDENCE : PARLIAMENT CONFIDENCE : CIVIL SERV PROUD TO BE	AGE FINISHED SCHOOL PEOPLE TRUSTED	BRADBURN SCALE STATE OF HEALTH	IS R HAPPY INCOME SCALE	
INDIA	FINANCIAL SATISFACTION HOME SATISFACTION IS R HAPPY LIFE SATISFACTION BRADBURN SCALE STATE OF HEALTH	CONFIDENCE : PARLIAMENT CONFIDENCE : CIVIL SERV	INCOME SCALE SOCIOECONOMIC STATUS AGE FINISHED SCHOOL	JOB SATISFACTION DECISION-MAKING FREEDOM FREE CHOICE/CONTROL	HELPLESS : UNJUST LAW	SOCIETAL CHANGE
NIGERIA	JOB SATISFACTION DECISION-MAKING FREEDOM FINANCIAL SATISFACTION HOME SATISFACTION IS R HAPPY LIFE SATISFACTION	INCOME SCALE SOCIOECONOMIC STATUS AGE FINISHED SCHOOL	CONFIDENCE : PARLIAMENT CONFIDENCE : CIVIL SERV	LEFT-RT SELF PLACEMENT	SOCIETAL CHANGE	BRADBURN SCALE STATE OF HEALTH

部分をできるだけ多く説明することのできる第2因子を求めるというというように、順次、解を求めていくのであるが、それでは因子の数はいくつとるのが適切かという問題が出てくる。ここではSPSSのプログラムに従って固有値（eigenvalue）が1.0以上のものを因子として取りあげた、②バリマックス回転を行ったのは、「軸の回転により各因子に対する意味ずけが容易になる場合が多い」（司馬正次『データ解析入門——SPSSへの招待——』東洋経済新報社、1977年、p. 201）とされているからである、という2点である。

さて、各国ごとの因子分析の結果を表1～7に示したが、各国ごとに一応の基準として設定した0.40を越える因子負荷量を示した諸項目（諸変数）を拾い出して一覧表の形でまとめたのが表8である。

4．知見の読み取りと今後の課題

以下においては、、各国ごとの因子分析の結果をひとまとめにした表8から、ここでの問題関心に焦点を合わせて、諸知見の読み取りを試みるとともに、それぞれの読み取りごとに今後の課題も併せてあげていくことにする。

①まず第1因子に注目するならば、各国をつうじて共通に見出すことのできる項目は「生活の満足度（Life satisfaction : V96）」と「家庭の満足度（Home satisfaction : V180）」の2つだけである。つまりこの2つの項目はどの国においても必ず第1因子に出てくるのであるが、それ以外の項目については各国ごとに差異が見られる。このことから、各国をつうじて、Well-beingを捉えようとするならば、その共通の変数は厳密にいえば、この2項目に限られるということが示唆されるのである。

②「幸せ度（Happiness : V18）」は中国以外の国では第1因子に出てくる。中国では「幸せ度」は「世帯年収（Income scale : V363）とともに第5因子を構成している。この点については、すでに『関西学院大学社会学部紀要』第75号で指摘したように、V18のwordingが米国で「happy」、日本で「幸せ」となっているのに対して、中国ではそれが「高興（楽しい）」と訳されており、その意味内容がかなり異なるものとなっていることによるものと思われる。しかしその「高興（楽しい）」が「世帯収入」とともに第5因子に属しているところから、「高興（楽しい）」という主観的な気分は「収入」という客観的な状態とは切り離せないものであることがわかるのであるが、それが「生活の満足度」「家庭の満足度」「家計の満足度」や、さらには「仕事の満足度」とも異なる因子を構成していることについては、やはり「なぜだろう」という疑問が残る。この点は今後の分析課題のひとつといわなければならない。

③「家計状態の満足度（Financial satisfaction : V132）」はドイツ以外の国では第1因子に現れる。しかしドイツでは「仕事の満足度（Job satisfaction : V116）」「仕事上での意志決定の自由度（Decision-making freedom : V117）」とともに第5因子を構成する。ドイツにおいては「仕事」と「家計」が強く結びついて、生活や家庭という領域における「満足」とは異なる別の意味空間を構成しているようである。

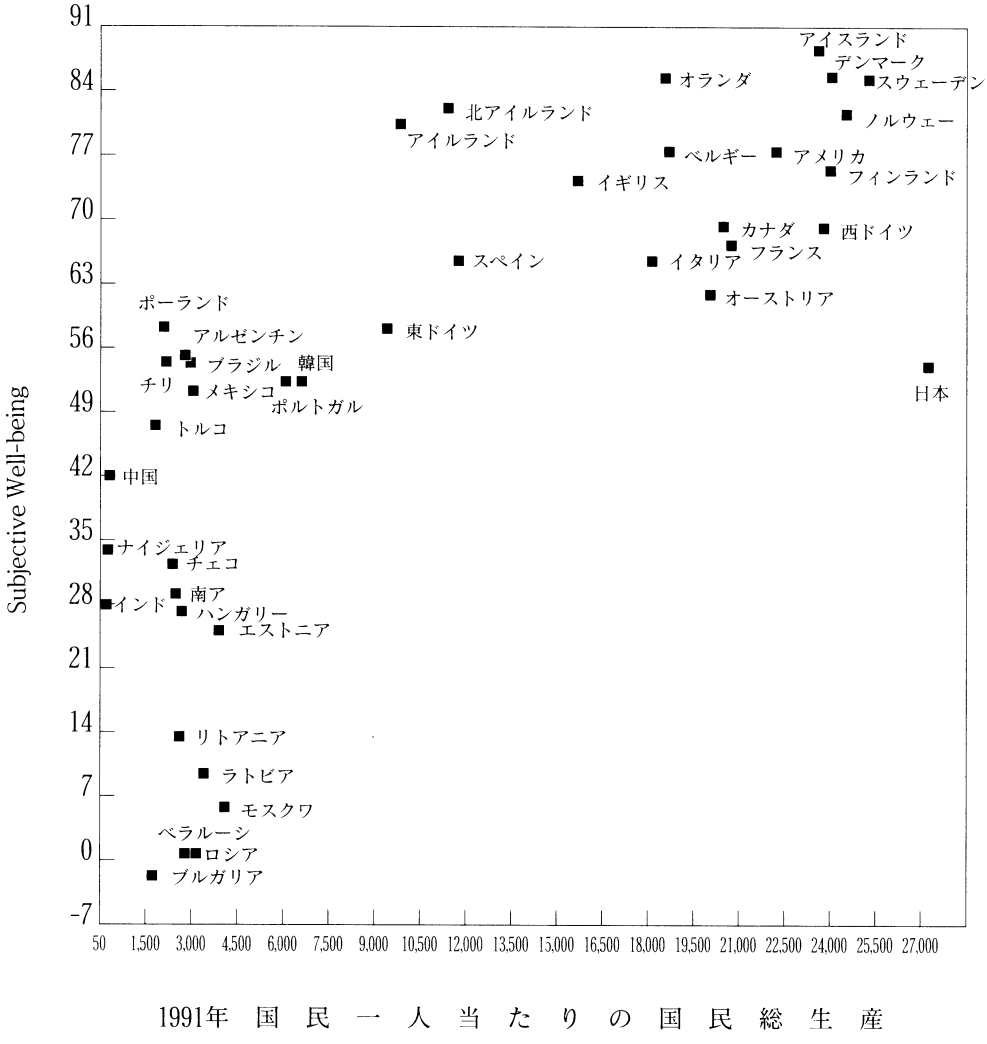
④同じ傾向——つまり「仕事」と「家計」が結びついているという傾向——を示す国として、中国とナイジェリアがあげられるが、これら2か国では「仕事」や「家計」の項目が「生活の満足度」「家庭の満足度」などとともに第1因子に含まれているという点でドイツの場合と異なる。

⑤「仕事の満足度」と「仕事での自由度」は日本、ドイツ、米国、ブラジル、インドではそれぞれ第1因子から独立して別の因子を構成している。ここで、これらの国ぐにでは、なぜ「生活の満足度」「家庭の満足度」が「仕事の満足度」「仕事での自由度」と異なる因子に属することになるのか、逆に、中国やナイジェリアでは、なぜこれらの諸項目がすべて同一の因子に属することになるのか、といったことも興味深い今後の分析課題といえよう。

⑥「精神状態：Affect Balance Scale（V421）」はいずれの国においても「健康状態（State of health : V83）」と強く結びついている。しかし国による違いが見られないわけではなく、それらの位置づけについてはつぎの2つのパターンが区別される。つまり、「精神状態」と「健康状態」が「生活の満足度」や「家庭の満足度」とともに第1

図2　経済発展と Subjective Well-being

N＝40　r＝0.74　p＝＜.00001



出典：1990-1991年の世界価値観調査における Subjective Well-being のデータ。国民一人当たりの国民総生産のデータは世界銀行の『1993年世界開発報告』(1993年、New York: Oxford University Press) による。

注：Subjective Well-being の指標は、それぞれの国民の(1)自分を「非常に幸せ」「幸せ」としている者から「幸せとはいえない」「不幸」としている者を差し引いた割合、および(2)「1」を生活全般に強い不満を持つとし、「10」を生活全般に非常に満足しているとする10段階尺度において、7-10をつけた者から1-4をつけた者を差し引いた割合の平均値を表している。

因子に含まれるパターンと、それら2つが独立した別の因子を構成するパターン、がそれである。前者のパターンはドイツ、米国、ブラジル、インド、後者のそれは日本、中国、ナイジェリア、――順に第6因子、第4因子、第6因子として独立して現れる――にそれぞれ見られる。そして、このような2つのパターンが出てくるのはなぜか、といったことについての検討もいうまでもなく今後の重要な課題のひとつである。

⑦「人生を思いどおりにできると思うかどうかの度合い（Free choice/control : V95)」が第1因子に現れるのはドイツ、米国、ブラジル、中国の4か国で、日本とインドではそれが第4因子に――日本では主に「教育レベル（Age finished

school : V356)」「世帯年収（Income scale : V 363)」「社会・経済階層（Socioeconomic status : V364)」などのフェースシート項目とともに（このことは日本では「人生が思いどおりになるかどうか」は「客観的属性」によって決まるということを示唆していて興味深い)、またインドでは「仕事の満足度」「仕事の自由度」とともに、それぞれ第4因子に——出てきている。ところがナイジェリアではこの項目は第6因子までのなかには全く出てこない。これらの点の解明も今後の課題として残される。

⑧以上においては、第1因子に注目して、各国における因子分析の結果を検討してきた。それにはもちろんそれなりの理由があった。それは「国際比較研究において必要なのは、比較可能な変数を取り出すことであり、単純に『全体』を比較することはできない」(G. A. Almond and S. Verba, 石川一雄ほか訳『現代市民の政治文化』、勁草書房、1974年、p. 62）という考え方であり、このような視点からWell-beingの国際比較を可能ならしめる変数の探索を試みたわけである。そしてその結果、Well-beingという理論変数を構成する経験変数の如何によっては、比較可能となる国の数に違いが出てくることがわかった。つまり、最も広く各国を比較可能ならしめる変数としては「生活の満足度」と「家庭の満足度」の2つがあり、それ以外の諸変数を組み合わせて用いる場合には比較できる国の数はくらか狭くなるということがわかったのである。じつは、このような知見は、R. Inglehartによる先行研究の再検討という問題関心の視座からも、きわめて重要なものといわなければならない。例えば、Inglehartは「幸せ度」と「生活満足度」という2つの質問項目を組み合わせることによって構成したWell-being Indexをグラフの縦軸にとり、国民一人当たりの国民総生産を同じグラフの横軸にとり、その2次元空間に各国をプロットするという分析を行っている（図2）(R. Inglehart, 真鍋一史訳「近代化とポスト近代化：経済発展と文化変化と政治変動の相互の関係の変化」『関西学院大学社会学部紀要』第77号、1997年、p. 147)。しかし、ここでの知見からすれば、中国では「幸せ度」は第1因子ではなく、第5因子に属しており、したがって中国も含めた分析においては「幸せ度」と「生活満足度」との総合indexは必ずしも有効なものとはいえないのではなかろうか、ということが示唆されるのである。

⑨最後に、各国をつうじて、第1因子以外で——つまり第2因子から第6因子までで——第1因子とは独立して別の因子を構成している諸項目群についても触れておきたい。それは、まず「国会への信頼度（Confidence＝parliament : V 279)」と「行政への信頼度（Confidence＝civil serv. : V280)」の2項目であり——中国で「社会変革（Social change : V249)」と「国民としての誇り（Proud of nationality : V322)」がこれらと同じ第2因子に含まれていることを除いて、ほかのすべての国においてこれら2項目は独立した因子（何番目の因子かについては国ごとに違いがあるにしても）を構成している——、つぎに「教育レベル」「世帯年収」「社会・経済階層」といった社会的属性の3項目である——日本ではそこに「人生を思いどおりにできる度合い」と「他人への信頼度」がくっつき、中国では「教育レベル」と「世帯年収」はそれぞれ異なる別の因子に属するとともに、「社会・経済階層」は第6因子までには全く出てこない——。これら以外の諸項目——たとえば「保守—革新」「社会変革」など——になると、ある国ではそれらが独立した因子を構成し、ある国ではそれらが別々にほかの因子にくっつくなど、各国をつうじて差異が大きくなることがわかる。以上の検討結果からも、Well-beingを第1因子に限って考察することの有効性が確認されたといえよう。

＜付記＞

この共同研究は㈱日本リサーチ・センターからの研究助成にもとづいてなされたものである。取締役調査研究本部　副本部長の飯嶋建治氏には、いつも暖かいご支援をいただいている。改めて心から感謝の意を表したい。

＜付録＞「世界価値観調査」の「日本調査」の質問文

問5　全体的にいって、現在、あなたは幸せだと思いますか、それともそうは思いませんか。

㉚　1　とても幸せ
　　2　かなり幸せ
　　3　あまり幸せではない
　　4　全く幸せではない
　　9　わからない

問9　全体的にいって、あなたの現在の健康状態はいかがですか。

㉚　1　非常によい
　　2　よい
　　3　まあよい
　　4　よくない
　　5　非常によくない
　　9　わからない

問10　精神状態についてみなさんにお伺いしていますが、ここ数週間のあいだにあなたは次のような気分や気持になりましたか。

	1　はい	2　いいえ	
A）何か特に興奮したり、興味を持ったりした	1	2	㉛
B）あまり落ち着かなくて、じっとしていられなかった	1	2	㉜
C）自分のしたことで他人にほめられ、誇らしく思った	1	2	㉝
D）とてもさびしかった、あるいは他の人から遠く離れているような気分になった	1	2	㉞
E）何かを成し遂げて、気分がよかった	1	2	㉟
F）たいくつだった	1	2	㊱
G）嬉しくて、有頂点になった	1	2	㊲
H）気分がふさいだ、あるいはとてもみじめな気分になった	1	2	㊳
I）自分に運が向いてきたような感じがした	1	2	㊴
J）他人に非難され、気分を害した	1	2	㊵

問11　一般的にいって、人はだいたいにおいて信用できると思いますか、それとも人と付き合うには用心するにこしたことはないと思いますか。

㊶　1　だいたい信用する
　　2　用心するにこしたことはない
　　9　わからない

問12　（カードF提示）　人生は自分の思いどおりに動かすことができるという人もいれば、どんなにやってみても自分の人生は変えられないという人もいます。あなたは、ご自分の人生をどの程度自由に動かすことができると思いますか。中間は5と6の間にあります。（1つの数字だけ○印）

㊷	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
㊸	〔人生は全く自由にならない〕									〔人生は全く自由になる〕

99　わからない

問13　（カードG提示）　全体的にいって、あなたは現在の生活にどの程度満足していますか、あるいはどの程度不満ですか。このカードの目盛りを使ってお答え下さい。

㊹	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
㊺	〔不　満〕									〔満　足〕

99　わからない

【働いている方に】
問17　（カードJ提示）　全体的にいって、あなたは、いまのお仕事にどの程度満足していますか、あるいはどの程度不満ですか。

㊻	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
㊼	〔不　満〕									〔満　足〕

99　わからない

【働いている方に】
問18　（カードK提示）　あなたはご自分の仕事の上での意思決定をどの程度自由にすることができますか。

㊽	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
㊾	〔全く自由はない〕									〔大いに自由がある〕

99　わからない

問24 （カードO提示） ところで、あなたはご家庭の家計状態にどの程度満足していますか、あるいはどの程度不満ですか。

⑳	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
㉑	〔不　満〕									〔満　足〕

99　わからない

問42 （カードT提示） 全体的にいって、あなたはご自分の家庭生活にどの程度満足していますか、それとも不満ですか。

⑩	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
⑪	〔不　満〕									〔満　足〕

99　わからない

問64 （カードCC提示） 政治の立場を明にするに当たって、世間ではよく「左（革新）」とか「右（保守）」とかいいますが、あなたはいかがですか。この目盛りを使って、あなたの政治に対する考え方をお知らせ下さい。

⑱	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
⑲	〔左（革新）〕									〔右（保守）〕

99　わからない
98　無回答

問65 （カードDD提示） このカードには、私達が住んでいる社会についての考え方が3つあげてあります。あなたの意見に最も近いものを1つ選んで下さい。

⑧⓪ 1　われわれの社会の仕組みは、革命によって根本的に変えなければならない
2　われわれの社会は、改革によって徐々に変えて行かなければならない
3　社会の転覆を企てる勢力に対しては、勇敢に立ち向かわなければならない
9　わからない

問73 （カードJJ提示） このカードをごらんになって、あなたがそれぞれをどの程度信頼するかをお知らせ下さい。非常に信頼しますか、かなり信頼しますか、あまり信頼しませんか、それとも全く信頼しませんか。

	1 非常に	2 かなり	3 あまり	4 全く	
H）国会	1	2	3	4	⑤②
I）行政	1	2	3	4	⑤③

問77　あなたは日本人であることにどのくらい誇りを感じますか。

⑤⓪　1　非常に感じる　　4　全く感じない
　　2　かなり感じる　　9　わからない
　　3　あまり感じない

問80　（カードPP）　これから政府と経済に関していくつか意見を読み上げます。それぞれについてあなたがどの程度賛成か、反対かをお知らせ下さい。このカードに用意された回答でお答え下さい。（1つずつ）

	1 全く賛成	2 やや賛成	3 賛成でも反対でもない	4 やや反対	5 全く反対	9 わからない	
D）政府が不当な法律を通過させたとしても，それに対して自分は何もできない	1	2	3	4	5	9	⑥⑨

F3　あなたが正規の学校教育を終えたのは満何歳のときでしたか。
（まだ学校へ行っている場合）正規の学校教育を終えるのは満何歳のときになるでしょうか。

□□　歳　　㉑㉒

【全部の方に】

F8　（年収のカード提示）　ここに世帯の収入を書いたカードがあります。昨年1年間のこちらのご家族全部の方の給料、年金、その他のすべての収入を合わせるとどのくらいになりますか。税金やその他で引かれる前の額でいうと次のどの番号に該当しますか。
（これは全体の統計を作成するためにおききするもので他意はありません。ありのままをお知らせ下さい。）

㉛　1　200万円未満　　6　600～700万円未満
㉜　2　200～300万円未満　　7　700～800万分未満
　　3　300～400万円未満　　8　800～900万円未満
　　4　400～500万円未満　　9　900～1,000万円未満
　　5　500～600万円未満　　10　1,000万円以上

【調査員記入】
Ｆ９　対象者の社会・経済階層

㉝　1　ＡＢ（管理職、自由・専門など平均以上の生活様式）
　　2　Ｃ１（販売、事務、技術などのホワイトカラー）
　　3　Ｃ２（技能(1)、つまり見習い期間をへた人）
　　4　ＤＥ（技能(2)、技能(3)、無職、主婦、学生、その他）

Cross–National Comparisons of the Structure of Subjective Well–Being in Seven Societies : A Secondary Analysis of the World Values Survey Data (1990–91)

ABSTRACT

The purpose of this study is to demonstrate an example of secondary analysis using the World Values Survey Data.

This paper first describes the history of the study of subjective well–being, and some of the interests that motivate this presentation. The second part of this paper explains why we compare seven nations here, describes the nineteen variables (or response scales) used to measure subjective well–being, and dicusses the methods and procedures of Factor Analysis by which we identified the structure of subjective well–being. The final part provides the results of our analysis, and some suggestions for further investigation. These results suggest that comparative study on subjective well–being is feasible using Factor 1, particularly two variables which construct Factor 1 : life satisfaction and home satisfaction.

Key words : Subjective Well–being, Cross–National Comparison, Factor Analysis